大阪大学東アジア拠点の活動について

海外交流

小　溝　裕　一*

Introduction of East Asian Center for Academic Initiatives, Osaka University

Key Words：study abroad, east asia, china, korea, global affairs

1．はじめに

2017年4月から大阪大学東アジア拠点（East Asian Center for Academic Initiatives）の拠点長として活動しています。2010年の設立当初は「上海教育研究センター」と称していましたが、中国の発展した沿岸部に限らず、中国全土はもとより、台湾、韓国なども含むより広い地域の高等教育機関との連携や学生交流を推し進めるため、2014年4月に「東アジアセンター」に名称変更し、さらに2017年4月から「東アジア拠点」と改名しました。事務所はずっと上海市内にあり、いまは地下鉄10号線の同済大学駅に直結する同済大厦A楼というビルの17階に入っています。

大阪大学は中国の多くの大学や研究機関と多数の大学間交流協定や部局間交流協定を締結し、研究者および学生の交流を積極的に展開しています。海外から来日する留学生のなかで中国人留学生の数が最も多いことは周知の通りですが、中国に事務所を構えるにあたり、多くの日本の大学が事務所を設置している北京ではなく、大阪市と姉妹都市の関係にあり、近隣に上海交通大学、復旦大学、同済大学、南京大学、浙江大学などの大学群があり、大阪から2時間程度で行くことができる上海にしたと聞いています。以下に、東アジア拠点の最近の活動を報告します。

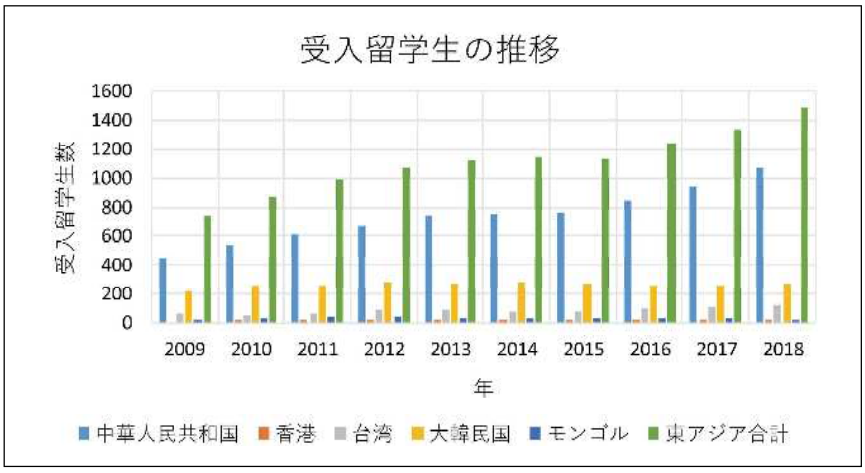

図1　最近10年の受入留学生の推移

* Yu-ichi KOMIZO
1950年2月生まれ
京都大学工学部金属加工学科卒業
（1972年）
現在、大阪大学グローバル・イニシアティブ・センター海外拠点係
特任教授/東アジア拠点長
工学博士　溶接工学
TEL：06-6105-6084
E-mail：komizo@cgin.osaka-u.ac.jp

2．国際交流の状況

ここ十年間の受入留学生の変化を図1に示します。東アジア拠点がカバーする中国、台湾、韓国、モンゴルからの外国人留学生数は、年々増加しており2018年5月1日付では約1,500名、大阪大学全体の60%に上ります。中でも中国からの留学生は1,000名を超え、全体の1位で44%に達する状況です。第2位は韓国、第3位インドネシア、第4位台湾と

続きます。

一方、本学学生が海外留学する時の、留学先を表1に示します（2017年度）。1位アメリカ、2位オーストラリア、3位中国と続き、9位と10位に同数で台湾と韓国が入っています。受入数に比べるとまだまだ数は少ないですが、本学では、将来的に海外留学の必須化を進めようとの考えもあり、これから益々対応が迫られるものと考えられます。

表1　本学学生海外留学生数（2017年度）

順位	国・地域名	学部	大学院	計
1	アメリカ合衆国	88	177	265
2	オーストラリア連邦	119	32	151
3	中華人民共和国	65	81	146
4	タイ王国	48	51	99
5	ドイツ連邦共和国	33	59	92
6	英国	57	35	92
7	カナダ	44	37	81
8	フランス共和国	17	45	62
9	台湾	31	19	50
10	大韓民国	21	29	50

大阪大学は全世界の多くの大学や研究機関と多数の大学間交流協定や部局間交流協定を締結しています。2018年9月現在、大学間交流協定は126件に上ります。東アジアで大学間交流協定を結んでいる大学を表2に示します。中国に13校、韓国に10校、台湾に4校、モンゴルに1校あります。この中でも上海交通大学は「グローバル・ナレッジ・パートナー」として位置づけ、積極的な交流を図っています。「グローバル・ナレッジ・パートナー」とは、複雑化かつ深刻化する社会課題に対し、これまで以上に多様な知を結集させ、取り組むための戦略的パートナーであり、世界の有力大学とともに設置する共通の課題について、分野横断で研究グループを形成し、先端研究を実施しようとするものです。同時に、この共同研究を通して世界水準の国際人材育成に取り組みます。

また、教育・研究の国際的なネットワークづくりの一環として、本学の卒業生や元教職員で、海外の大学・研究機関で教授等として活躍される方々を対象に、新たな称号「Osaka University Global Alumni Fellow」を創設し、平成27年2月から授与を開始しました。現在37名の方々に授与されていますが、そのうち中国11名、韓国3名が含まれています。

表2　東アジア地区で大学間交流協定を締結している大学（2018年9月現在）

中華人民共和国	北京師範大学	大韓民国	昌原大学校
	復旦大学		全南大学校
	南京大学		中央大学校
	北京大学		忠南大学校
	上海交通大学		慶尚大学校
	香港大学		漢陽大学校
	香港中文大学		釜山大学校
	同済大学		ソウル大学校
	清華大学		延世大学校
	武漢大学		大邱慶北科学技術院
	西安交通大学	台湾	国立成功大学
	浙江大学		国立交通大学
	香港科技大学		国立台湾大学
モンゴル	モンゴル国立大学		国立清華大学

3．おわりに

東アジア拠点長を拝命してから一年半が経ちました。私は、接合科学研究所教授時代から中国や韓国の先生方と、共同研究や国際会議での議論等を通じて交流を行っていました。今回、東アジア拠点長として、いくつかの中国の大学と交流を進めていくと、これまでとは違った姿が見えてきました。2017年5月時点の日本への中国人留学生は10万人を超え、これまで日本政府が中国を含む東南アジアの学生を日本に呼ぶさくらサイエンス等の施策を主導していた成果が表れているように見えます。一方、外国（特に東南アジア）から若手を中国に招待するという中国版さくらサイエンス事業も昨年から始まり、留学に関する日本と中国の力関係が徐々に変化しつつあるように感じます。深圳では留学から帰った若人が、いろいろなベンチャー企業を立ち上げて熱気にあふれています。この熱気を本学学生にも体験してほしいと感じるこの頃です。

参考文献

末永敏和「大阪大学上海教育研究センターについて」、生産と技術、第63巻　第3号（2011）、89-91.

大谷順子「大阪大学東アジア拠点設立5周年」、生産と技術、第67巻　第4号（2015）、117-121.